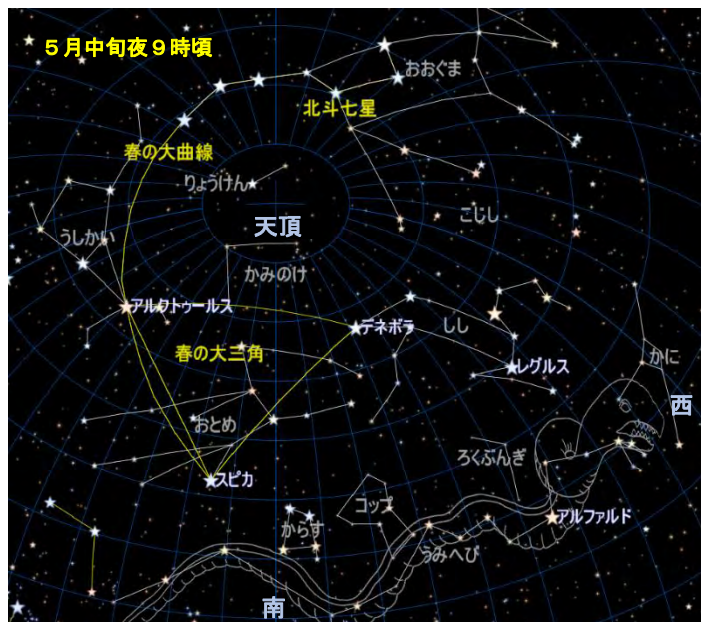


★ 今月の星もよう ★

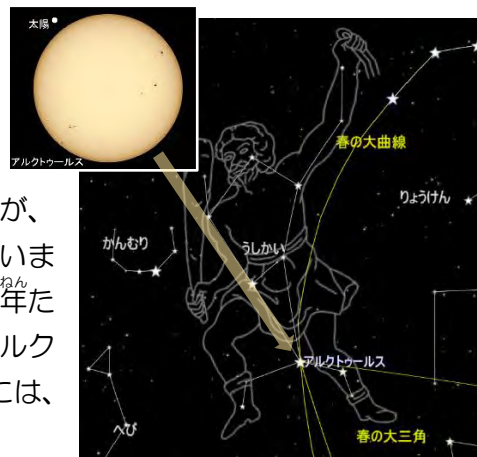
5月中旬夜9時頃の星空をみてみましょう。南の夜空には、春の星座たちが勢ぞろいし、北の空を見上げると、ひしゃくの形をした7つの星が並び《北斗七星》が見つかります。北斗七星は「おおぐま座」の背中からしっぽにあたる部分で、ひしゃくの柄のカーブを南の方に伸ばしていくと、「うしかい座」の1等星アルクトゥールスを通り、「おとめ座」の1等星スピカにぶつかります。この大きなカーブを《春の大曲線》と呼んでいます。また、アルクトゥールスとスピカ、そして「おとめ座」の隣にある「しし座」のしっぽの2等星デネボラを結びと、《春の大三角》ができあがり、どちらも春の星座を探す目印として知られています。さて、「しし座」のレグルスの下には、2等星のアルファルドがあります。暗い星々の中、明るく輝くこの星は、「うみへび座」の心臓部分を表しています。ここから西にいくつか集まっている3~4等星が「うみへび座」の頭、東の方へ連なっている星々が「うみへび座」の長い胴体を表しており、全天で最大の星座となっています。そして、「うみへび座」の背中の上には、4つの3等星が台形に並んだ比較の見つけやすい「からす座」と、4等星以下の暗い星々で形作られた「コップ座」が並んでいます。



★ うしかい座のα星「アルクトゥールス」

うしかい座の1等星アルクトゥールスは、古代ギリシャ語で「熊の番人」という意味を持ちます。うしかいの膝で輝いて、牛たちが熊に襲われないように番をしているように見えるため、こう呼ばれたと言われています。アルクトゥールスは、全天で21個ある1等星の中で、4番目に明るいオレンジ色に輝く星です。質量は太陽とほぼ同じですが、直径は25倍もあって、太陽よりも早く誕生した星だと考えられています。ほとんどの恒星は、あまりにも遠くにあるため、地球から見ると何年たってもあまり位置が変わらないように見えるのですが、驚くことにアルクトゥールスは、超高速でおとめ座の方向へ移動しており、約5万年後には、おとめ座の1等星スピカのすぐそばで輝くと予想されています。

↓ アルクトゥールスの想像図と太陽との大きさの比較 / Daniel William "Danny" Wilson (CC BY-SA 4.0)



月は大きさを強調して描いています

★ 月と土星の接近に注目!

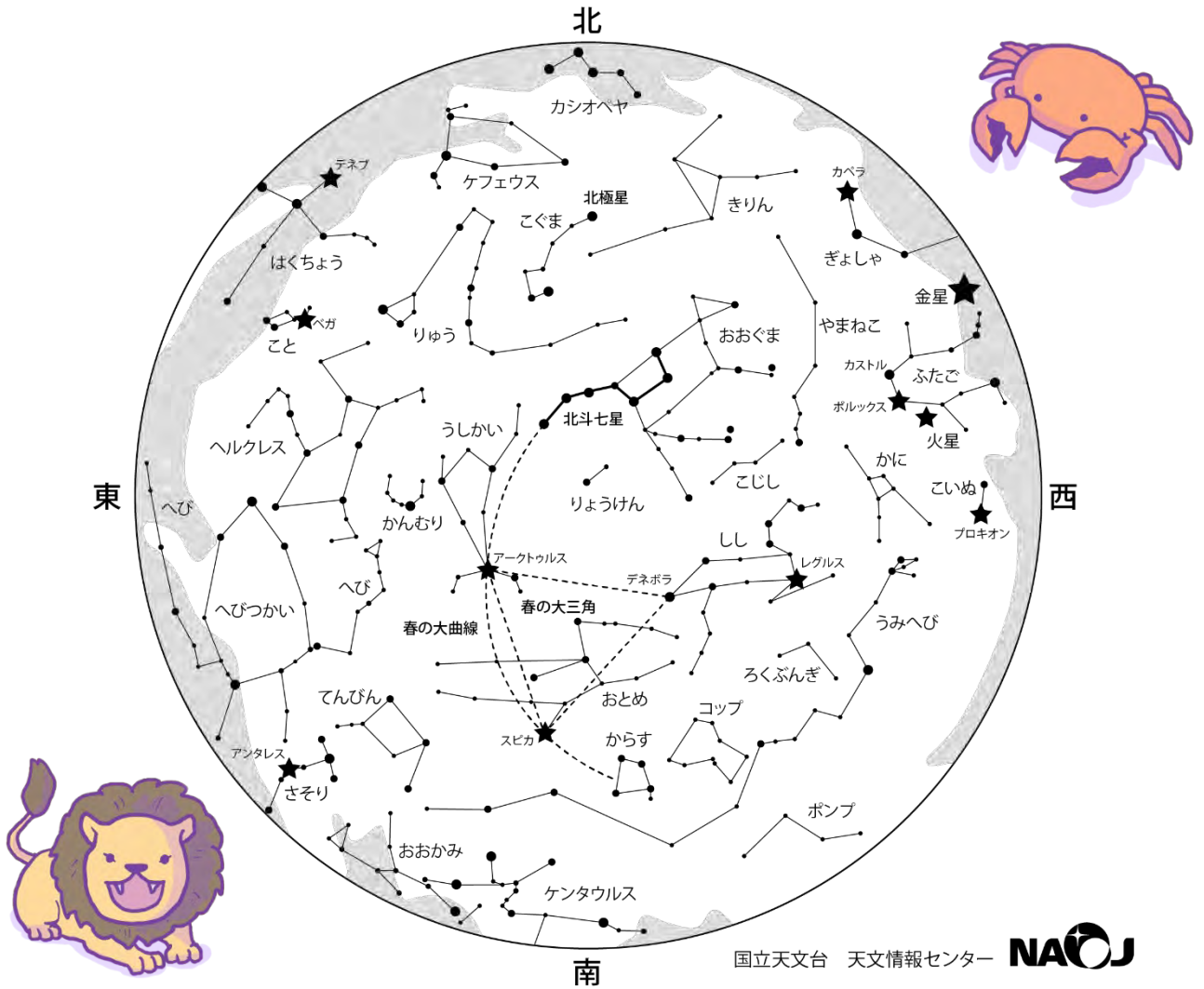
5月は、夜明け前の南東の低い空に、土星が見えています。土星の明るさは1等程度ですが、周りには明るい星が少ないので、よく自立っています。そんな土星に、12日から15日にかけて月が近づいていきます。12日に下弦を迎えた月は、13日と14日には少し細くなって土星に近づきます。ちょっと早起きをして、夜明け前のひとときに、月と土星の共演を是非楽しんでみてください。



★ 5月のプラネタリウムの内容については、別刷りの「投影案内」をご覧ください ★★

★ プラネタリウムのお休み 5/1(月)、2(火)、8(月)~11(木)、15(月)、17(水)、22(月)、29(月)

5月上旬午後9時頃の星空



★ 5月上旬の主な天文現象

6日(土) 半影月食 (食最大2時23分) ○ 満月、立夏、 みずがめ座η流星群が極大	7日(日) 月とアンタレスが接近 12日(金) 下弦 14日(日) 未明に月と土星が接近
---	--

★ 国際宇宙ステーション(豊川での主なデータ 5/1~15) ※下記時刻は、予想値です

◇	5月 12日(金)	[見やすさ ◎]	3:40 北北西	~	3:46 東南東
◇	5月 12日(金)	[見やすさ ◎]	20:19 南西	~	20:25 北東
◇	5月 13日(土)	[見やすさ ◎]	19:30 南南西	~	19:37 東北東
◇	5月 14日(日)	[見やすさ ◎]	20:18 西	~	20:24 北北東

豆知識：国際宇宙ステーション (ISS) は、明るい星が動いているように見えます。飛行機のような赤緑ランプの点滅はありません。